

事業所における自己評価結果 (公表)

公表：令和 年 月 日

事業所名 ここっと

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制整備	①	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	11		児発が少ないのでゆっくり向き合える	
	②	職員の配置数は適切である	10	1		法定人数配置の想定でスキルアップ研修をしたい(人数は足りている)
	③	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	10	1		特性を理解し視覚支援も積極的に行う 環境設定の工夫 クールダウン空間の確保
	④	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	11		日々の清掃 ハサミの管理 の工夫	
業務改善	⑤	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	10	1	定期的な話し合いと打ち合わせを行っている	
	⑥	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	11		可能な限り意向に沿った対応をしている	
	⑦	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	11			
	⑧	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	8	3		入職したばかりで把握できていない
	⑨	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	11		ヒヤリハットを利用した月1の研修	
適切な支援の提供	⑩	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	11		わかりやすい文面である	
	⑪	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	9	2		他社のツールも利用したい
	⑫	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	11			

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
	⑬	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	10	1		特性や性格の理解を日々深めたい
	⑭	活動プログラムの立案をチームで行っている	10	1	話し合いを持っている	一人が抱え込まないように話し合いをもつ
	⑮	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	11		ヒットした物は継続する	
	⑯	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を 適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	11			
	⑰	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、 その日行われる支援の内容や役割分担について 確認している	10	1	可能な限り 実施	
	⑱	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、 その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた 点等を共有している	10	1		最後まで残れない非常勤が確認できる よう、支援経過記録を共有する
	⑲	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、 支援の検証・改善につなげている	11			
	⑳	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援 計画の見直しの必要性を判断している	11			
関係機関や保護者との連携 関係機関や保護者との連携	㉑	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議 にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者 が参画している	9	2		担当者会議が土地柄根付いて いない
	㉒	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や 関係機関と連携した支援を行っている	10	1	療育センター と連携	
	㉓	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害 のある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等 の関係機関と連携した支援を行っている				非該当
	㉔	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害 のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制 を整えている				非該当
	㉕	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚 園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支 援内容等の情報共有と相互理解を図っている	10	1		
	㉖	移行支援として、小学校や特別支援学校 (小学部)との間で、支援内容等の情報共有 と相互理解を図っている	11		引き渡しの際 様子を聞いている	
	㉗	他の児童発達支援センターや児童発達支援事 業所、発達障害者支援センター等の専門機関 と連携し、助言や研修を受けている	9	2		

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
	⑳	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、 障害のない子どもと活動する機会がある	9	2	幼稚園やこども 文化センターに 行っている	
	㉑	(自立支援) 協議会子ども部会や地域の 子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	8	3		
	㉒	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、 子どもの発達の状況や課題について共通理解を 持っている	11		お迎え時に フィードバックと 情報交換を行っ ている	
	㉓	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護 者に対して家族支援プログラム(ペアレント・ トレーニング等)の支援を行っている	9	2		
保 護 者 へ の 説 明 責 任 等	㉔	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明 を行っている	11			
	㉕	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の 提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、 これに基づき作成された「児童発達支援計画」 を示しながら支援内容の説明を行い、保護者 から児童発達支援計画の同意を得ている	11			
	㉖	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対 する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を 行っている	11		丁寧に受止め 支援・助言して いる	
	㉗	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を 開催する等により、保護者同士の連携を支援 している	11			
	㉘	子どもや保護者からの相談や申入れについて、 対応の体制を整備するとともに、子どもや保護 者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速 かつ適切に対応している	11			
	㉙	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事 予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に 対して発信している	9	2		InstagramやH.Pで繋がれるよう にしたい
	㉚	個人情報の取扱いに十分注意している	11		児童に触らせな いものを明確化	Instagram顔出し許可児を常に確認
	㉛	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や 情報伝達のための配慮をしている	11		連絡帳やline を使っている	
	㉜	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に 開かれた事業運営を図っている	8	3		
非 常 時	㉝	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症 対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に 周知するとともに、発生を想定した訓練を実施 している	11			

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
等 の 対 応	④②	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出 その他必要な訓練を行っている	11			
	④③	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の こどもの状況を確認している	11			
	④④	食物アレルギーのある子どもについて、医師の 指示書に基づく対応がされている	11		ヒアリング等で 確認	
	④⑤	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有 している	11		月1全体 ミーティング にて共有	
	④⑥	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保 する等、適切な対応をしている	11			
	④⑦	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うか について、組織的に決定し、子どもや保護者に 事前に十分に説明し了解を得た上で、児童 発達支援計画に記載している	10	1	研修を 行っている	該当児なし

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は、事業所全体で行った自己評価です。